事　業　報　告　書

工組・支部名　：北海道電気工事業工業組合青年部　札幌支部
札幌電気工事業協同組合青年部　3委員会合同特別プロジェクト
資料提出日　：平成31年　　月　　日

1．【事業名】　3委員会合同特別プロジェクト
「親子でんきフェスティバル」

2．【実施日時】　平成31年1月12日

3．【実施場所】北海道電気会館

4．【提言書2016との適合性】本事業に当てはまる項目番号と提言書ページ数をご記入ください

①人材育成と後継者育成（P.5～）　②組合員の経営安定化の支援（P.12～）
③技術・施工品質の向上と経営能力の向上（P.16～）
④その他（業界の魅力向上と発信の強化）

◎項目番号：　①③④　　◎提言書ページ：P.7・17・19

5．【事業目的】
①若年層への電気工事業界のPRとイメージアップを図る
②組合員お子様にお父さんの仕事や電気の大切さについての理解を深める
③外部の協力を得ながら色々な発想や発展・可能性を図る
④青年部員、個々に持っている知識や発想を引き出し、青年部活動の活性化を図る

6．【事業内容】
今回新たに3委員会合同での特別プロジェクトとして、委員会の垣根を越えた取組を企画し実施に至りました。全日電工連のアンケート結果によると、電気工事業界への入職率の高いのが、身内が業界に従事する方が多いと言う事から、ターゲットを組合の親子で、また今までは高校生を対象とした事業を進めて来ましたが、もっと若年層へのアプローチを掛ける事によって、早い段階から業界に繋がる進路選択も出来るのではないかとか考えました。
親子のコミュニケーションツールとして、冬休みの自由研究にも役立つように、電気工作を実施。
既製品のLEDランプではなく、北海道科学大学に協力を仰ぎLEDランプを簡単に手に入る部材を用いて親子で体験して貰う。
青年部内での若手の活躍の場としても視野に入れ、従来の役員主体ではなく、部員一人一人の個性や経験、技術・知識などの発見する意味でも、それぞれの班にリーダーを選出しリーダー主体の事業展開を試みました。
市内工業高校生には『教わる』側から『教える』側を体験して貰い、電気についての自分たちの知識等の再確認をして貰うと共に、我々の電気工事業界の取組への理解と、就職の選択肢としての位置づけを植え付けるも事を目的とします。

７．【参加員数】　札幌電気工事業工業組合青年部　40 名

８．【外部協力者】

札幌市役所	5 名
北海道電力株式会社	5 名
北海道科学大学	8 名
北海道札幌琴似工業高等学校　（生徒）	10 名
パナソニックエコソリューション㈱	2 名
㈱タダノ	6 名

９．【事業総額】　別紙、事業決算書参照

10.　【事業の成果】

今回の取組を通じて沢山の発見や成果が見られたと思います。まずは青年部内での底上げが出来ました。今回は役員が主体となって取り組むのではなく、立場をフラットにし取組む事で自主性が生まれ、個人個人が『考え・発言し・実行』する事で今回の取組がより良い物へと進んで行きました。また、日頃の仕事で時間が合わないなどの点から親子のコミュニケーションを取る事は中々難しいと思います。この取組を通じてお父さんがどんな仕事を、どんな資格と知識を持って勤めていて、私たちのライフラインの大変重要な役割を担っている事を『見て・触れて・学ぶ』事が出来たと思います。

更には他団体と協力する事で、出来る領域や可能性の拡大に繋がります。業界内で出来る事は限られてしまいますが、それぞれの立場やノウハウ得意分野があり、それを活かす事でより多くの成果を導き出し結果へと繋がります。今回はその第１歩として組合員向けでの開催となりましたが、今後の展開としてはより多くの方に電気業界やワレワレの取組を拡散出来ればと考えます

何よりも青年部員が一つの目標にみんなで取組、参加された組合員親子に笑顔で満足して貰えた事が一番の成果だったと思います。

11.　【反省点または工夫した点】

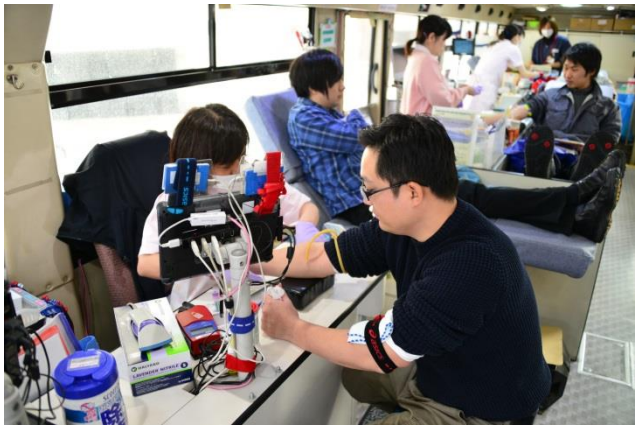
■反省点：企画から動き出すまでに色々なハードルがあり、準備から開催までの期間がタイトになってしまった。初めての試みと言う事もあり指示系統や体制の構築が不十分であった為に、確認作業等にも時間がかかってしまった。お陰で若手リーダー達に負担を掛けてしまった。
縁日を開催したが子供達の軽食は充実していたが、親御さん達の軽食を今後考えて行きたい。

■工夫した点：昨年北海道を襲ったブラックアウトを題材に、我々の仕事の大切さを楽しく学ん貰えるよう、部員が作り上げた映像とパフォーマンスショウで盛り上げた。

１２. 【別添資料（写真・動画等）

全日電工連
全国青年部協議会

親子でんきフェスティバル



スペシャル賞